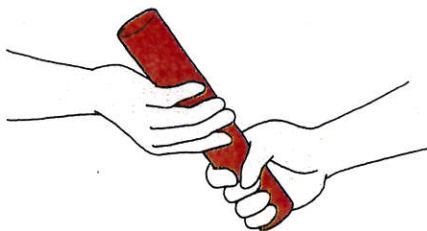


# 市民リレー インタビュー

No.22

このコーナーは、普段須坂市に関して思っていることや、考えていることなどを市民の方にインタビューします。

今月のインタビューは、山崎永一さんからバトンを引き継いだ宮澤智史さんです。



宮澤智史さんは、須坂で生まれ育ちました。

幼いころから司法書士の父の背中を見て育ち、人から信頼される仕事に魅力を感じて、司法書士になりました。

司法書士の資格を取るために、東京の司法書士事務所で働き、12年前にUターンしました。特に空き家対策に取り組んでおり、「須坂景観づくりの会」にも所属しています。妻と長女の3人で生活しています。



宮澤智史さん(右)と長女の宮澤ちゃん(米持町)

## 空き家からまちづくり

須坂市の空き家は5軒に1軒といわれています。空き家を放置すると、雑草が茂り、ゴミが捨てられ、虫・野生動物が住みついて悪臭が発生するなど、景観や治安が悪化し、さまざまな問題が生じます。空き家になる原因の一つは



講演の様子

相続手続きがされないことです。私は空き家や終活のセミナーで必ず話すのは「家を将来どうするのか、家族でよく話しをしてほしい」ということです。話しを先延ばしにすると、所有者が年を重ねて認知症になったり、亡くなるケースもあり、最終的には空き家になってしまいます。相続の段階になってからではなく、所有者が元気なうちに家族で話し合う必要があります。

空き家は個人の所有ですが、まちなかの景観・景色はみんなの物です。家一軒一軒が町をつくっていきます。まちに空き家が多くなると景観は崩れてしまうという意識を持つことが大切です。

司法書士として不動産登記や相続手続き、成年後見制度などのお手伝いをしています。が、手続きだけでなく不安や心配なことの相談にも乗って

います。不動産を次世代につなげるのが須坂に住む司法書士としての自分の使命だと感じています。

## 須坂最高！

今年須坂青年会議所の理事長を務めます。これまで「すざかいぎ」や『須坂人』の発行を通し、次世代の政治への関心や将来を考えるきっかけづくりを行ってきました。今年も最高の須坂を次世代に残していく取り組みを継続していきたいと考えています。



『須坂人』

私は須坂という町が好きです。果樹などの農業が盛んで、長野市に隣接し、都市部からのアクセスもよく、雪は少ない、温泉もグレンデも近くにあり、温泉水もよく、人と人とのつながりがやすいです。この魅力が多い須坂を次世代につなげていきたいと強く思っています。

## 次世代につなげていくために

これからインター周辺に商業施設などができると多くの雇用が生まれます。須坂にも人口の増加が見込まれるため、その受け皿として大いに空き家を活用してほしいです。また、市内にも空き家・空き店舗を利活用したすてきなお店が増えてきましたが、もつと空き家の活用が加速してほしいと思います。須坂は住まいや店舗の需要が高いので、空き家を持っている方は売買や賃貸をして、須坂に住みたい方や出店したい方に力を貸していただけたらうれしいです。

豊かな環境で住み続けられる持続可能な須坂市であることを願っています。



須坂の町並み